

第 213 回競技委員会議事録

1. 日 時：2011 年 9 月 7 日（水）18 時 00 分～20 時 00 分

2. 会 場：連盟本部事務局

3. 出席委員：

競技委員会：委員総数 13、定足数 9、出席 13（内委任状 3）で成立。

清水康裕委員長、寺本直志、古田一雄、斉藤千鶴乃、正村祐一、

山後秀幸、山菅昭夫、西田奈津子、田中陵華、仲村篤志

以下委任状：林伸之、佐々部君敏、平田眞

オブザーバー：大政哲人、鈴木正人

4. 議事の経過及び結果：清水康裕委員長を議長に議事を逐一審議した。

第 1 号議案 各検討グループからの中間報告

(1) コンベンションリストの検討に関して寺本委員、山後委員の検討結果が文書で提出され討議された。

a) ACBL の General Chart と Mid Chart に関して

① 『1 の代のスーツオープンに対するジャンプシフトが、既知の 5-4 以上を示すレスポンスに関して』：リスト C の競技会でビッドスーツを含まない高レベルのコールは、対戦相手の対策ビッドに混乱が予想されるため『1 の代のスーツオープンに対するジャンプシフトレスポンスが、ビッドしたスーツを含む既知の 5-4 以上を示す』という案が提示されリスト C にすることを承認した。ハンドの強さは限定しない。

② 『10 点以上、5-4 以上の既知の 2 スーターを示すシンプルオーバーコールとこれに対するレスポンス』：国内での要望少ないとの意見が提示されリスト D のままとした。

③ 『トランスファーレスポンス／アドバンス』：国内では一般的でなくディフェンス対応の困難という意見が提示されリスト D のままとした。

④ 『ナチュラルな NT 後のコールに関して 2D 以上でスーツを特定していないコールの制限』：すでに多く使われているマルチランディ等に配慮し 2H 以上で規制する案が提示された。委員から 2D 以上で規制するか、現状通り規制しないかが妥当で 2H 以上を規制するのは根拠に乏しいではないかとの意見があった。討議の結果、現状を維持し規制しないこととした。

b) 『アップサイドダウニングナルのリスト B への引き下げ』：リスト C の競技会においても、説明があやふやであったりオポネントの対応がうまくできていない例が示され現状通りリスト C とした。

c) 『マルチ 2D のリスト C への引き下げ』：マルチ 2D は対策ビッドの難しいコンベンションのひとつである。世界選手権に於いても、オークション中对戦相手がディフェンスサマリをテーブルに持ち込んで参照することが認められている。同じ手続きを国内のリスト C 該当競技会に於いて一般の参加者に求めることは困難である。従って現状通りのリスト D とした。

d) 検討グループから、リスト B において 1NT のディフェンシブビッドのうちリプストラとアストロは使用頻度および難易度の点から不相当ではないかとの意見があった。討議の結果アストロの難易度について了解し、アストロをリスト C にすることとした。

e) 検討グループから、ラビンサルディスクードに関して、スーツプリファランスである以上リスト B で制限することが出来ないのではないかとの意見があった。委員より海外の解説ではたしかにラビンサルディスクードの項目の説明はスーツプリファランスとしか書いてなかったとの報告があった。西田委員からラビンサルディスクードは、そのスーツのノンカモンとスーツプリファランスの複数の意味を伝えるディスクードでリスト C においても最初のディスクードでのみ使用できるシグナルなので、リスト B で制限されることは妥当ではないかとの意見があり、現状通りリスト C とした。

f) 検討グループから、リスト D の使えるセクショナルの開催要件を緩やかにしてはどうかとの意見があった。現状でも競技委員会に申請のうえ承認があれば開催できることを確認し承認するガイドラインを以下の通りとした。

①セクショナル以上のレイティングで 2 セッション以上の競技会であること

- ② 1 ラウンドに継続して 6 ボード以上をプレイすること
 - ③ 参加制限がオープンであること。ストラテジファイドは不可
 - ④ 複数フライト場合は最上位フライトのみ。ただし複数フライトでなくても可
 - ⑤ コンベンションカードの事前提出に対応できること
- (2) マッチポイントにおけるファクタライズに関して、仲村委員と正村委員から検討の報告があった。WBF、ACBL、EBU での現状と分析について文書で報告があった。現状維持が妥当との意見が承認された。
- (3) 用語集の見直しに関して清水委員長より、全文の一回目の見直しが完了したことが報告され、保留事案等、林委員を加えて見直し事項の再検討を行い次回競技員会で報告することとした。
- (4) コンベンション規定の書き直しおよびアラート規定の見直しについて、引き続き寺本委員と山後委員で検討し次回競技員会で途中結果を報告することとした。

第 2 号議案 文部科学大臣杯全国大会に関して

- (1) 地方クラブより、文部科学大臣杯の参加規模の拡大を目的とした関東代表の複数チーム化とシニアフライトの新設という提案があった。
- 委員より文部科学大臣杯の規模の拡大が必要なのか浜松リジョナルを含むイベント全体としての規模の維持・拡大が必要なのかとの意見があり、競技事業部とともにイベント規模が重要であるとの認識に達した。
- a) 『関東代表の複数化について』：予選から決勝 KO に残る 4 チームに関東チームが 2 チーム含まれる可能性があることに反対する意見もあったと報告された。その他委員より以下のような意見が出された。
- 複数チームを派遣する場合、予選規模についてガイドラインが必要
 - 1 テーブルしか増えないので大会規模拡大の目的とは合致しない
 - 地区間の予選規模の格差是正という点では意味がある
 - 決勝 KO での対戦を考慮する可能性はあっても、予選 RR 上位のチームが決勝 KO に残れないのはおかしい
 - 地区の居住者対抗ではなく地区ごとの予選における決勝大会として地区予選を含めた活性化を図ってはどうか（古田委員）
- 検討の結果、同一地区から複数チーム参加があっても等しく決勝 KO に進める、複数チームを派遣する基準は予選が 20 チーム以上であること、3 チーム以上の参加は考慮しない。その上で各地区の合意が取れるならば規定を変更することとした。
- b) 『シニアフライトについて』：委員より参加地区が確保できるかとの疑問があった。検討の結果、60 才以上を参加資格として、4 地区以上の参加が見込めない場合は新設を行わないこととした。前項とあわせて各地区に問い合わせることとした。
- (2) 大政事務局長より文部科学大臣杯はフライト A の優勝チームについてのみ授与されるので来年から、下位フライトには文部科学大臣杯の名称が使えないことが説明された。大会名称は、『全日本地区対抗戦』と改め、そのフライト A の優勝チームに文部科学大臣杯の授与を得ることで文化庁に報告することとした。
- (3) 前項とは別に大会規模の維持・拡大のため、浜松リジョナルを含めた大会の有り様を検討すべきだとの意見があった。

第 3 号議案 スイスの同点順位付けに関する競技規定変更の確認

第 212 回競技委員会(2011 年 6 月 1 日)決議に基づき、事務局より競技規定の変更案が提示され、内容が確認された。次回理事会に提出、承認を求める。

第 4 号議案 その他議案

なし。

次回競技委員会は 11 月 2 日（水）18 時 00 分からの開催を予定する。

以 上